第 2016-35 号

恵みと真理のニュース

2016 年 8 月の四次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

私の家族を救ってくださり、旦那の重い病気を治療してくださった神様、今日も教会を仕え福音伝道に献身する楽しむを享受してくださった神様に感謝します

私の家族は神様を信じて信仰生活をしましたが、私は結婚するときまで神様を信じなくて生活しました。信じない旦那に出会って結婚しました。婚家は農業する家庭で私は日々農業と家事て忙しかったです。そうするうちにある日、旦那が急に脳出血で倒れて大きい手術を受けました。手術を受けても旦那が生きる確率が1%にもならないと言われて晴天の霹靂のような話でした。

消息を聞いて走って来たお姉さんが私と旦那のため神様に切なく祈ってくださいました。そして、この危機な事を通して神様があなたの家族を救うためこのような事が起きたのではないかと思うとまず、何よりもイエス様を信じて神様の助けを求めるとしました。あまりにも切ない状況でしたのでどう祈るか分からないが涙を流し、旦那を助けてくださいと祈りました。

神様は私を憐れんでくださり恵みを与えてくださり可能性がなかった旦那が手術を受けて徐々に意識が戻りました。そうなるまでには多くの時間がかかり、また、多くの困難がありました。 医師も継続して否定的な話ばかりしました。そんな状況で私がするのは教会に行って祈りをするしかなかったです。状況が否定的になればなるほど神様をもっと仰ぎました。

どころが、倒れる前は性品が優しくて穏やかな旦那が時間が立てどんどん 鋭くて否定的に変わっていきました。お酒も飲み始めました。旦那の心が疲れ果ててますます私も疲れていきました。さらに、いくらしても減らない農業の事で体は重たくなって年老いた夫の実家のお年寄りの扶養と幼い子供の養育まで私の力だけでは到底耐えられない日々の連続でした。それだけではなく、婚家はイエス様を信じなかったのでイエス様を信じることの迫害も重なって日々涙を流しながら暮らしました。

そうするうちに始めて祈った時に私の祈りを神様は聞いてくださり、旦那を助けてくださった神様の慈しみと権能を考え、もっと熱心に教会に通い、力を尽くして祈りました。そのときに礼拝時間ことに当会長の牧師の説教と祈りが大きい力になりました。旦那の状態が悪化され再び入院して良くなると退院するのを繰り返しました。そんな状況で私は区域長の職分を受けて続いて首区域長の職分も感謝の心で受けて婚家の迫害にも我慢して職任を誠実に修行するように努力しました。私が首区域長として仕え奉仕を始めて何日後、ついに旦那と子供達が教会に来てイエス様を信じる奇跡的な事が起きました。ハレルヤ！この時から私の家族が教会中心の信仰生活をしました。旦那は牧師の説教を聴き感動を受け恵みを受けて心と考えと態度が変わって行きました。主日礼拝、平日礼拝、金曜日祈り会の全ての礼拝に熱心に三席しました。

ある日は主日に私が礼拝と奉仕を全部終えて家に帰って来たら讃美歌が聞こえました。男性奉仕連合会で長老と執事達が来られ礼拝を捧げ旦那のため祈ってくださいました。その方々の祈りと励ましが旦那と私には大きい力になりました。私はもっと旦那が健康になると確信と希望を持つようになりました。以降、旦那はまず酒を止めて禁煙にも成功しました。そして、男性奉仕連合会と聖歌隊で楽しく奉仕を始めました。

旦那は時間があると教会に行って教会あちこち行って仕える喜びで毎日神様がくださる楽しさを享受しました。私も職分に忠誠して福音伝道の実を得て献身するやりがいがあるようにしてくださいました。また、経済的にも神様は大きい福を与えてくださり、神様を信じ仕える家庭のように隣の人々に祝福の通路になり神様に捧げる喜びがあふれるようにしてくださいました。現在、旦那は体が麻痺されなくて健康になってヨンイン聖殿を仕えています。今回任職礼拝で長老で任職を受けて使命と幸せに教会と生徒を仕えています。私の家庭を救ってくださり、旦那の病気を癒してくださり、全ての家族が一つになって神様の栄光のため生きるようにしてくださった恵みと摂理に感謝します。振り替えてみると峠を我慢し多くの苦難の中で神様の恵みがなかったら自分の力では乗り越えない時間でした。神様、感謝します。神様を愛します。これから神様くださった人生なので天国に行く日まで残った人生は主だけを仕え愛する心で生きると決心しながら神様に栄光を捧げます。

［信仰コラム］　キリスト人の人生の動機と目的

"...もはや自分のためにではなく、自分のために死んでよみがえったかたのために、生きるためである。"（コリントの信徒への手紙二 5:13～15）

私達の全ての行為には動機と目的があります。動機と目的が稀薄な場合や曖昧な場合はあり得るが、全然ない場合とはありません。人間社会で個人や組織体の全ての活動はその動機と目的によって性格が規定されて価値と意味が決められます。イエスキリストを信じる人は以前にはなかった新しくて崇高な人生の動機と目的を持つようになります。

第一、キリストの強権なさる愛がキリスト人の人生において基本的で核心的な動機であります。キリストの愛は人間の知識では到底知れない神秘で驚くべきな愛であり、私達の想像を極める超越的な愛です。その広さが全ての人に及ぶほど豊かで、その長さが時間の制限を越えて極めて長いです。その高さが罪人が天国に至るようにするほど高く、その深さが罪人を救うために死なれて陰府に下られたほど深いです。イエスキリストがつけられた十字架は愛の広さ、長さ、高さ、深さを指しています。キリストの愛は豊かな愛であります。誰も、何も絶えることのできない愛です。差別のない愛で永遠な愛であります。使途パウルはキリストのこのような愛が私達を強権していると言いました。'強権'という言葉は強いて勧めるという意味でありますが、聖書原語の意味を表すには十分ではありません。まるで流れる川で泳ぐ人が強い波が後ろから圧迫を加えるので下に押されるようのと同じです。

使途パウルは神様が人間としてお越しになり、人生達の罪を担って十字架に代わりにつけられて死なれたあがないの真理を悟った日からキリストの愛の捕虜になり、支配された者になりました。羊が牧者の口笛に応答して馬が手綱を引く通りに従うようにパウルを刺激して活動するようにすることは強権なさるキリストの愛でした。

これより善良で美しく、崇高な人生の動機はありません。キリストの愛が私達の人生において常に一貫した動機になるべきです。

第二、私達の代わりに死なれて再び生きたキリストのために生きることがキリスト人の人生において基本的で核心的な目的であります。聖書が述べる死は三つに分類することができます。肉体的な死があります。肉体と魂が分離される現象です。肉体的な死はアダムの犯罪によることであり、キリストが再臨なさる前までは全ての人が経験する必然的な過程です。また、霊的な死があります。神様がアダムに善悪の果実を食べる日にはきっと死ぬと言われたがこれは神様との関係が断絶される霊的な死まで意味することです。そして、二番目の死があります。キリストの再臨の後に罪人達が最後の審判を受け永遠な暗みと苦痛、悲しみを経験するようになる火の池に投げ込まれることを意味します。

アダムが犯罪したのでその血統通りに生まれた全ての人は皆原罪を持って出生し、罪悪の中で生きて審判を受けるようになり二番目の死に処されるようになりました。しかし、キリストがお越しになり私達の罪を代わりに担って十字架につけられて死なれ、復活昇天なさったことによってキリストを信じる者は誰でもキリストと連合するようになりました。キリストのあがないの死と復活はこれを信じる者にとこしえの命を得るようにするだけではなく'キリストのために'という新たな目的を持って生活するようにします。キリストのために生活するということは何でキリストが願って喜ぶ方向通りに行うことを意味します。人々が皆さんに"あなたはなぜそんなに熱情的に信仰生活をしますか？""あなたはなぜそんなに逼迫を受けながらも伝道しますか？"と訪ねると、"私のために死なれ再び生きたキリストのためです。"と答えてください。私達は全ての事において一貫して変りのない動機と目的を持って行うべきです。そして、それは神様によることであるべきです。本文のお言葉はこれを提示しています。皆さんは強権なさるキリストの愛が動機になり、キリストのために目的で生活してください。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

訴 え る 力

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

新約聖書の福音書に見ればイエス様に行って奇跡的な病気のいやしを受けた人々に対するお話がたくさん記録されています。その中に　ある病者の治癒を受ける過程はイエス様との対話とともに詳らかに描写されています。このようにその場面が詳しく描写された理由は読む者に興味を満たすためではないです。 私たちに神霊で多様なメッセージをくださるためなのです。そして私たちが見習うことにするためなのです。今日はその中で　四人を選んで当時に彼らにあった事を調べてそこで探すようになる共通された教訓をよく見ます。

第一は、寝床に横になった状態でイエス様に進んだ中風の病者です。

イエス様がいたるところに通いながら天国福音を伝えながら病んだ者をなおして奇事を行いました。 イエス様が巡回旅行を終えてガペナウムに帰って来ました。 イエス様がある家に入ったといううわさが広がると人々の群がって来てイエス様がいらっしゃる家は余地がなくなりました。 その時担架に横になった中風病者を運ぶ人々が現われました。 彼らは人々の了解を得てイエス様の前に入って行こうと思いました。 ところで一足跡もこれから進むすきまができなかったです。 彼らは難関に逢着すると新しい突破口を探しました。 中風病者が横になった寝床を屋根の上に持って行きました。当時の屋根は一種の平たい屋上に外にある階段を通じて上がるようになっていました。 彼らは屋根の上に上がってイエス様いらっしゃる所を見当をつけてその屋根を取り離し始めました。ついに屋根がさっと抜けられました。 屋根の上の四人が寝床に列を結んで下に下ったしついに寝床が部屋の床に下ろされました。 するとイエス様がおっしゃいました。 “子よ、あなたの罪はゆるされた　あなたに命じる。起きよ、床を取りあげて家に帰れ」” その瞬間中風病者が起きたし彼が今まで横になった入ることを持って出ました。 担架によって運びされて来た者が返ってその担架を運ぶ者になりました。その所に集まった人々は皆が衝撃的な驚きと慌惚な恐れを感じました。 そして一斉に神様に光栄を持たせました。

二番目は、血涙証を治療を受けるためにイエス様に出て来た女人です。

イエス様がカリリの東の方ゴラサ地方での活動を終えてｧペナウムに帰って来ました。 イエス様が浜辺に到着すると大きい群れが集まって来ました。その時会堂長が急に出て来たらイエス様の足下に伏せて懇請しました。 “自分の幼い娘が死ぬようになりました。 私の家へいらっしゃってその子供に手を上げていやしてください。” イエス様が会堂長の要請どおり会堂長とともにいらっしゃるのに多い人々がイエス様を囲んで押しながら付いて行きました。

あの時顔の青白い女性一人が人々の間に挟まって入って来てイエス様に近付こうと労力していました。 その女人は血涙証の患者で１２年の間病気に苦しんで来ました。 治療を受けようと医者さんたちを捜し回ったが財産だけむだ使いして病気はもっと悪くなりました。
青白い女人はイエス様を囲んだ群れの中に入って行こうと死力をつくしました。 その女人は自分がイエス様の服に手だけつけても血涙証がいやされると信じたからです。 遂に女人は血の気ない手を突き出してイエス様の服を触りました。 その瞬間出血がとどまりました。 女人は病気が治ったことが分かりました。 すべて形言できない喜びが女人の心を一杯に満たしました。 この時でした。 イエス様がいらっしゃった歩みを止めたら人々を見回しながら “誰が私の服に手を出したか?” 質問しました。イエス様が周囲を見回したら血涙証を治し受けた女人が恐ろしがって震えてイエス様の前に出て来て伏せてすべての事実を申し上げました。するとイエス様がおっしゃいました。 “娘よ、あなたの信仰がお前を救いしたから平安に行きなさい。 あなたが元気であるだろう。” 喜びと感激の涙が女人の頬に下がりました。

三番目は、悪霊に取り付かれた娘を治癒を受けるためにイエス様に出て来た女人です。

この女人は異邦人であるスロボニヶの族属でした。 この女人はイエス様がツロにいらっしゃったという事実が分かってイエス様にお会いするために駆けて来ました。 そしてからは “その地方出のカナンの女が出てきて、「主よ、ダビデの子よ、わたしをあわれんでください。娘が悪霊にとりつかれて苦しんでいます」と言って叫びつづけた（ マタイによる福音書，15：２２）” と大声を出しました。イエスはひと言もお答えにならなかった。そこで弟子たちがみもとにきて願って言った、「この女を追い払ってください。叫びながらついてきていますから」。するとイエスは答えて言われた、「わたしは、イスラエルの家の失われた羊以外の者には、つかわされていない」。しかし、女は近寄りイエスを拝して言った、「主よ、わたしをお助けください」。イエスは答えて言われた、“普通人のようであったらとても不快であったろいます。
しかしその女人は全然そんな態度を見せないで答えました　子供たちのパンを取って小犬に投げてやるのは、よろしくない」。すると女は言った、「主よ、お言葉どおりです。でも、小犬もその主人の食卓から落ちるパンくずは、いただきます」。 そこでイエスは答えて言われた、. イエスキリストがその女人に回答なさったお話が　マタイによる福音書とマルコによる福音書にそれぞれ次のように記録されました。「女よ、あなたの信仰は見あげたものである。あなたの願いどおりになるように」。その時に、娘はいやされた。 “あなたがこの話をしたから帰りなさい悪霊があなたの娘から出て行きましたと。”

四番目は、盲人を治療を受けるためにイエス様に出て来たバルテマイです。

ジェリコにバルテマイという視覚障がい者があります。 彼はジェリコの道端で毎日物乞いするのでやっと食いつないでいました。 ある日バルテマイの生涯に決して忘れることができない驚くべきな日が近付きました。

彼はその日イエス様がその所を通るとい うわさをききました。 バルテマイはその間ナザレイエス様が行った奇事に対するうわさを数えきれなく聞いて来ました。 特に病んだ者をいやした話はいつも彼の心に一抹の期待感を持たせました。 ところでイエス様がまさに自信があるこの通りに通るということが分かるようになるとバルテマイの胸はわき始めました。
彼は気をつけてイエス様が通る瞬間を捕捉しようと思いました。 “あそこイエス様が通る。” という音をきく瞬間バルテマイが叫びました。“「ダビデの子イエスよ、わたしをあわれんでください」と叫び出した。 多くの人々は彼をしかって黙らせようとしたが、彼はますます激しく叫びつづけた。” 周囲人々がびっくりして一斉にバルテマイに “静かで 静かで。” その叫んで彼の行動を沮止しました。 するとバルテマイはもっと大きく大声を出して “「ダビデの子イエスよ、わたしをあわれんでください」” としました。 彼は邪魔師に圧倒されないで積極的な対処をしました。 ついにイエス様が歩みを止めて “彼を呼んで来い。” とおっしゃいました。 人々がバルテマイに “安心して起きなさいイエス様がお前を呼ぶ。“イエスは立ちどまって「彼を呼べ」と命じられた。そこで、人々はその盲人を呼んで言った、「喜べ、立て、おまえを呼んでおられる」。そこで彼は上着を脱ぎ捨て、踊りあがってイエスのもとにきた。イエスは彼にむかって言われた、「わたしに何をしてほしいのか」。その盲人は言った、「先生、見えるようになることです」そこでイエスは言われた、「行け、あなたの信仰があなたを救った」。すると彼は、たちまち見えるようになり、イエスに従って行った。”
イエス様のお話が宣布されると直ちに彼が見るようになりました。 バルテマイは喜びと感激によって流れる涙をぬぐってイエス様の後に沿い始めました。
神様を向けて人間は訴えることができます。神様は人間の訴えに耳を傾けます。 聖書にはその事実の疑う余地がないようにとても明白に啓示されています。
“わたしに呼び求めよ、そうすれば、わたしはあなたに答える。そしてあなたの知らない大きな隠されている事を、あなたに示す。”（ エレミヤ書，33 :3)で神様がおっしゃいました。聖書には訴える力ある祈祷と信仰と従順そして訴える力ある献身に対して幾多の事例が記録されています。 私たちがよく見た中風病者、血涙証女人、スロボニヶの女人、バルテマイは神様を向けた訴える力ある処身に対してその共通分母を見せてくれた示しです。
第一、神様の助けることと恩寵を切に望む心を持たなければなりません。 何でも消えることができない火のような願いを持って切に望んでください。 第二、積極的に訴えなければなりません。 ふさぐのが何でもそれによって気落ちするとか萎縮してはいけないです。 障害物をもっと切に訴えさせる刺戟剤にしてください。第三、遂に回答を受けると決断しなければなりません。 不退の決心をしてください。 そして神様の口約束とあがないの恵みが訴える力の根拠というのを忘れてはいけないです。

聖徒の皆さんは皆が主　神様を向けて訴える力を持った信仰生活を通じて神様が施す奇事を体験して、回答を受ける体験がますます加えられるように願いします。